



水稲・イネカメムシ情報



近年、イネカメムシの発生が多い状況です

- ◆ 県内ほぼ全域で発生し、不稔籾や斑点米の被害が見られます。
- ◆ 落葉下などで越冬し、翌年に多発する可能性があります。
- ◆ **出穂期とその7～10日後の2回防除(液剤)を徹底**してください。

●被害を防ぐために

- ・イネカメムシは出穂直後の穂を吸汁して不稔籾を生じ減収を引き起こします。また、その後も穂の吸汁を続けると斑点米が生じます。
- ・防除適期である出穂期(穂の先端が少しでも出た茎が4～5割)を逃さないことが重要です。
- ・薬剤の感受性低下を防ぐため2回防除では、系統が異なる薬剤を選定しましょう。
- ・一部地域では、キラップフロアブルで感受性低下事例があるため、防除薬剤の選定は地域の指導機関等に相談しましょう。

【イネカメムシに対する主な薬剤】

系統	IRAC	商品名(例)	使用回数(※1)
ネニコチノイド	4A	スタークル液剤10、顆粒水溶剤(粒剤、豆つぶ(※2))	3回
スルホキシミド	4C	エクシードフロアブル	3回
フェニルピラゾール	2B	キラップフロアブル、(粒剤(※2))	2回

(※1) 農薬散布に当たっては、使用回数等のラベルの表示内容を必ずご確認ください。また、止水をして処理してください。

(※2) やむを得ず粒剤を散布する場合、出穂期防除はキラップ粒剤は出穂7～10日前、スタークル粒剤は3～5日前です。

粒剤による体系防除は、スタークル粒剤を出穂3～5日前＋キラップ粒剤を出穂期頃です。

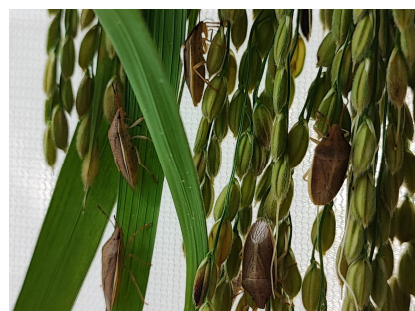
または、キラップ粒剤を出穂期7～10日前＋スタークル粒剤を出穂期の5日後頃に処理しましょう。



Noriyuki Miyake



<イネカメムシ成虫>



<イネ籾を吸汁中の様子>